

平成29年度

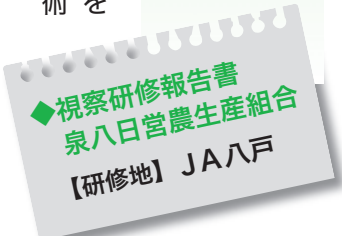
三種町農業人材育成事業報告

本事業は、農業の中核となるべき農業者の方がたを先進農業地の優れた農家やマーケティング、生産技術を体得させるなどの目的で研修補助を行っています。

泉八日営農生産組合 視察研修顛末

泉八日営農生産組合
組合長 三浦 道夫

泉八日営農生産組合では、稲作以外の取組みとして大豆・ネギを作付しています。組合員の見聞を広げるため、青森県田子町のにんにく専用C A 冷蔵庫・高温処理施設等を視察・意見交換をして参りました。



りは土壌作りに集約され、「にんにくを作ることは、土を作るといふこと」という姿勢を一貫して行っています。

にんにく高温処理施設の導入の背景には、イモグサレセンチュウによる腐敗が多くなり、市場評価を損なうおそれが生じたことから導入し、処理能力は1日16・6トン。パワーヒート方式で50℃で9時間処理を行っているとのこと。

にんにく専用C A 冷蔵庫は、輸入にんにくシェアの拡大、価格の低迷、萌芽抑制剤の使用禁止等による産地の危機を打開するため、定時定量出荷、長期貯蔵による品質・量目の劣化防止(周年供給)、消費者ニーズにあつた出荷、萌芽抑制効果を図るため町で建築し、農協が運営していました。

今回の研修で、田子町のにんにくのブランドを守るため、町・農協・生産者による一体となった取組など色々と学ぶことができました。今後の営農計画に生かして行きたいと思えます。

視察研修で得たこと

泉八日営農生産組合
鈴木 秀高

泉八日営農組合では、ともに助け合つて、米に代わる作物として主に大豆を作付しながら新たな作物を模索しており、田子町を視察しました。

田子町は早くからにんにく栽培を行い、ブランド化に成功した町です。標高が高く、土壌がにんにく栽培に適していたため、昭和37年から栽培が始まり、平成3年度には、作付面積230ha、販売数量1630tで販売額は8億3300万円にのぼりました。現在でも4億2300万円の売り上げがあり、市場を通さず直接商社や業者に販売しています。

J A の貯蔵施設は町の助成金で建てられ、農家が収穫したにんにくは専用のC A 冷蔵庫に保管され、空気中の酸素濃度を調節することによって萌芽抑制され、通年出荷が可能になりました。また、生産量の4分の1は加工用として販売しています。研修を終えて感じたことは、生産者とJ A が一つになって、並々なら



ぬ努力によってブランド化できたこと。私たちも、今後もあきらめずに努力したいと思えます。

視察研修を終えて

J A 秋田やまもと営農販売課
谷野 弘和

視察研修では、J A 八戸のにんにく専用のC A 冷蔵庫、白く着色するための乾燥機を見学。通年して安定的に出荷できるように様々な設備が揃っていました。

田子町のにんにくは、転作品目として昭和40年代から栽培され、販売額8億と日本一を誇っていました。が、高齢化やネグサレセンチュウの被害などによって年々減少しているそうです。また、偽物の出回りや、農家への直接買い取りなどの問題も出ています。

J A 八戸ではにんにく産地を守るために、堆肥などの土壌改良資材の積極的な投入、ネグサレセンチュウの被害軽減指導や、にんにくの加工品に力をいれると共に、生産者による消費地での試食対面販売を行っています。

今回の視察研修で色々なことを学ぶことができ、今後の業務に生かし、日々仕事に努めていきたいと思えます。

◆申し込み・問い合わせ先

農林課 農政係
285-4826